

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」、「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR 等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であったと考えるが、受験者が限られたため統計的に有意な判断は不可能である。

A 発音変化に関する問題である。問1は初声字「o」の発音の異同を問う問題であり、問2は濃音化しないものを選ぶ問題である。問1は「挿入の規則が適用されるものと終声の初声化により音の変化が生じるものの区別」、問2は漢字音「法」が濃音化されるか、されないかを問うものであった。問1は音韻変化の規則を理解していれば正答を導き出せる問題であり、問2は基本語彙でありつつも注意を要する語彙の発音を問う問題であった。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しい理解をしているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語等とどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

C 語句の整序問題である。この問題は新傾向の問題として、一昨年度に引き続き出題されたタイプのものである。韓国語は日本語と語順がほぼ同じであるため、韓国語文が日本語の直訳とならないようにし、韓国語としても自然な表現を問うことに重きを置いた。また、日本語母語学習者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

第2問 日常生活においてよく使われる表現を素材にして、文脈に沿って対話を完成させる問題と、対話の内容を理解し状況を把握する問題等を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

Aは、アニメーションやドラマなどを視聴する場合、それぞれのサービス会社（アプリ）にどのような特徴があるのかについて先輩後輩が語り合うもので、その内容を正確に理解できて

いるかどうかを測る問題が中心となっている。

問1 空欄補充問題で、前後の文脈が把握できれば正答を導き出せる問題である。

問2 空欄補充問題で、前後の文脈が把握できれば正答を導き出せる問題である。

問3 会話の内容から後輩の現段階のニーズに最も近いサービス会社（アプリ）を選ぶ問題である。会話内容を丁寧に追っていけば難易度はそれほど高くない問題と言える。

問4 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。会話文を正確に読めていれば正解を導くことができる問題である。

問5 会話文の内容と一致する情報の組合せを選ぶ問題で、会話文を正確に読めていれば正解を導くことができる問題である。

B ラジオ番組における二人のDJの会話とリスナーからの投稿によって構成されているため、DJの経験談と投稿内容とを正確に読み分けることができるかを問う問題が中心である。

問1 該当するものを選ぶ選択問題で、会話文を正確に読めていれば正答を導き出せる問題である。

問2 会話文の内容と一致する四字熟語を選ぶ空欄補充問題である。文脈を理解しており、かつ基礎的な知識があれば正答を導き出せる問題である。

問3 会話の内容と一致する組合せを選ぶ問題で、文脈を理解していれば正答を導き出せる問題であった。

問4 空欄補充問題であり、投稿の内容に沿ってリスナーの本文の意図を読み取れば正答に到達できる問題であった。

問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。会話文を正確に読めていれば正解を導くことができる問題である。

第3問 表やグラフ、公共案内文、モバイル機器の画面など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容の理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が問題を解く上で肝要である。問題作成に際して検討を重ねてきたが、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。

A 韓国のある高校における一週間の給食の献立を示した表を見て、その内容を正確に把握できているか、韓国語で書かれた選択肢から適当なものを選ぶ問題である。表内の情報に照らしつつ選択肢を読んでいけばよい取り組みやすい問題である。

B 公共の体育センターのウェブサイト上の案内文に関する問題である。

問1 利用者と案内デスクのやり取りから、利用者が利用したいスポーツ施設を選択する問題である。建物内の施設の配置や、用品の無料貸出しを行っている品目などの情報を適切に参照することで、正答を導くことができる。

問2 水泳プログラムの参加者の日記を読み、この参加者がどのコースに変更したかを選択する問題である。文章を正確に読み取りつつ、一覧表から曜日、料金などを正確に読み取ることで、正答を導くことができる。

問3 ウェブサイトの内容と一致する選択肢を選ぶ問題である。全体に対する総合的な理解を要し、細部を正確に理解することで正答を導くことができる。

C イベントの参加者募集案内を資料とした問題である。

問1 本文のイベントの主旨を把握し、一致する説明を選ぶ問題である。特に「募集対象」や「活動内容」の項目を適切に読み取ることで、正答を導くことができる。

問2 本文の募集案内を見ながら行われた会話文を読み、会話の人物が「参加できない」適切な理由となる会話の内容を埋める問題である。「募集対象」の内容を正確に読み取ること

で正答を導くことができる。

問3 案内文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題である。書かれた言葉を文字通り理解するととどまらず、その言葉の含意する所をよく読み取ることで正答を導くことができる。

第4問 電子媒体を通してインターネット小説に続いて登場したウェブ小説の特徴と展望を扱った評論を読み、その内容に対する理解度を問う問題である。本文の全体的な内容を踏まえ、漢字問題、空欄補充、各段落を要約した小タイトルの選択、内容一致の問題など、様々な形式の問題を出題した。受験者が極少であったため有意な平均点を参照することはできないが、全体的に適切な出題であったと判断される。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。一部難易度の高い問題が含まれているが全体としては特に難易度が高かったとは思われない。

問2 本文の内容を踏まえて、複数の空欄に共通して入る最も適当な語句を選択する問題である。文脈に合う言葉の選択力が問われる。

問3 本文の内容を踏まえて、空欄に入れるのに最も適当な語句を選択する問題である。文脈に沿って適切な副詞を選択する力が問われる。

問4 本文の内容を正確に把握して、それぞれの段落の内容を表現した小タイトルの組合せとして最も適当なものを選択する問題である。段落の内容を適切に要約できる力が必要となる。

問5 提示された文章を本文中に入れるのに最も適当な箇所を選択する問題である。文章の構成を正確に読み取る力が必要になる。

問6 本文から読み取れる内容に最も適ったものを選択する問題である。内容をきちんと理解しているかを問うもので、丁寧に文を読めれば難易度は高くない。

問7 本文中の空欄に入れるのに最も適当なものを選択する問題である。適切な副詞句を選ぶもので、文脈を正確にとらえる必要がある。

問8 本文中の下線部の理由として最も適当なものを選択する問題である。本文の内容を適切に把握できれば特に難易度は高くない。

問9 本文中の下線部が指すものについて、本文の内容と一致しないものを選択する問題である。本文の内容を適切に理解して正答を導くこととなる。

問10 本文全体の内容と一致するものを選択する問題であり、本文の内容を正確に理解することが求められる。①と⑥の2つを選択する必要があるが、特に難易度が高かったとは思われない。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の問題も昨年度と同様、実生活の中で接する文章を読んで問題解決を図る問題や、長文の中に漢字問題や文法問題を組み込むなどのこれまでの試みを定着させると同時に、並べ替え問題を出題するなど、思考力やコミュニケーション能力を重視した問題の作成を行った。

第1問に関しては発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判はある。しかしながら、本部会では、コミュニケーション能力を問う前提として正確な発音・語彙・文法の知識を問うことは学習者にとって必要なことであり、中等教育と高等教育をつなげる共通テストの意義という観点からも妥当性があるという見解である。ただし、常に最良の問題を作成するための努力は続けていくことは当然であり、出題方法の検討などもこれからも引き続き行っていく。

実用文の出題について、方式についてはいまだ試行錯誤中だが、多様な文章、実践的な文章を読むという点自体は高く評価されてきていると考える。問題の質についても昨年度よりも若干向上したと判断する。問題中の情報量が多い点については、今後も問題の量を調整する努力を続けていく

予定である。

長文問題は、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。漢字語や専門用語が多めで難易度がやや高いと考える。長文の分量と問題数については、引き続き検討を続けていきたい。

昨年度に続き、今回の問題も、高等学校入学以降から学習を始めた生徒にも解答可能な問題であったと思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

4 ま と め

「共通テスト」開始に当たって実用問題を取り入れるなど新たな取組がなされて今年度で5回目となるが、まだ課題は残る。ペーパーテストにおいて発音問題の出題方法については検討を続ける必要がある。また、実用問題における題材や形式については、新しい試みであるだけに様々な可能性がある一方で、大学入試問題として許容される実用文の範囲をどう定めるかという問題について、今後も検討を要する。長文問題は「共通テスト」になって以降、主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるよう検討していく必要があると同時に、分量や問題数についても引き続き検討が必要である。

全体の分量には常に留意する必要がある。使用語彙や文法項目、難易度等については、今後も現在の水準を維持していく。